

会 議 録

1 会議名

令和5年度第4回新道区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

(1) 報告事項（公開）

○ 上越観光物産センターの廃止について

(2) 協議事項（公開）

○ 自主的審議事項について

(3) その他

3 開催日時

令和5年7月25日（火）午後6時30分から午後7時30分まで

4 開催場所

新道地区公民館 多目的ホール

5 傍聴人の数

なし

6 非公開の理由

なし

7 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

・委員：秋山 茂、飯塚幸太郎（副会長）、井澤 愛、金井 正、佐藤三男、杉田榮作、千町健実、高野ゆかり、塚田仁子（副会長）、船崎 聡（会長）、三浦正郎、横山明夫（欠席2名）

・事務局：中部まちづくりセンター 小林所長、井守副所長、渡邊係長、山崎主事

8 発言の内容

【渡邊係長】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第1項の規定により、会長が議長を務めることを報告

【船崎会長】

- ・会議録の確認者：井澤委員

次第2 議題「(1) 報告事項」の「上越観光物産センターの廃止について」に入る。事務局の説明を求める。

【渡邊係長】

- ・資料に基づき上越観光物産センターの廃止について報告

【船崎会長】

以上で次第2 議題「(1) 報告事項」の「上越観光物産センターの廃止について」を終了する。

次に、次第2 議題「(2) 協議事項」の「自主的審議事項について」に入る。

本日の自主的審議事項は、正副会長、事務局との事前協議の結果、「地域活性化の方向性」の3つの構成要素のうち、近年、災害や事故、犯罪が身近で発生しているので、「安全・安心な生活環境」について協議したいと思う。なお、他の構成要素や今まで協議してきたものについては、新たにできた活性化プロジェクト委員会で協議することになっている。ただ、皆さんから他に意見があれば、発言していただきたい。そういう方向でフリーディスカッションを行いたいと思う。

【秋山委員】

子どもたちの通学路の安全確保のため、以前グリーンラインを引いた。除雪等で削られてしまい、冬場には効果がない。今は実施されていないのか。グリーンラインの有効性や必要性はどうか。

【船崎会長】

鴨島一丁目では、グリーンラインが大分消えていて、市の道路課に相談したときには、このグリーンラインは地域活動支援事業を活用して引いたものであり、市はそれについて関与していないとのことだった。その後、下水道工事でアスファルトを敷き直すので、その時に一緒に行くことになった。他の地域はどうなのかは、わからない。道路課は、グリーンラインが消えて見えなくなったところについては、対応すると話していた。ただ、冬に雪でライン自体が見えなくなるのは、現状としては対処のしようがない。

【杉田委員】

「安全・安心な生活環境」に絞られたが、会長に腹案はあるか。

【船崎会長】

考えているのは、空き家対策と災害対策である。

【杉田委員】

配布された地域協議会だよりを見ると、地域独自の予算の提案の締め切りは8月31日と書いてある。提案に向けて審議しても、前に進めないと思う。

【渡邊係長】

事務局から回答させていただく。前回の協議会の開催前に「地域協議会だより」が話題になっていたので、皆さんにもお渡ししたいと思い、後から郵送した。ここにあるスケジュールは、あくまでも地域独自の予算のスケジュールである。

地域協議会での議論の出口が3つある中で、地域独自の予算で進めるのであれば、現在の委員の皆さんには申し訳ないが、予算化は再来年度になってしまうと思う。それを次期委員から遂行していただける保証はないが、皆さんの思いとして引き継がれるよう、協議していただきたいと思う。必ずしも地域独自の予算の提案という結果にさせていただくことはない。今日のご意見を整理していく中で、出口がどこになるのか、その後に決まるということである。

【小林所長】

地域協議会で地域の課題について協議をして、その解決に向けて取り組もうというものであり、ここでの協議は無駄にならない。地域独自の予算は予算を用意する方法である。地域協議会は話し合いをするところであり、その結果を意見書として上げるのが本筋の仕事である。予算を用意して、何か本当に実現することばかりを話し合うものではない。限られた時間の中で、話し合ったことを具体的に市長に対して意見を述べる。これを前提にして話し始めるところである。地域独自の予算とは切り分けて、これからの議論を始めていただければと思う。

【船崎会長】

独自予算を活用した取組は、新しい委員にお任せすることとして、今回、市に意見書ないし要望書を提出する場合、1月までに市へ提出しないと、我々の任期満了までに市からの回答が来ない。これがまず一つ。もう一つは、今の地域協議会委員だけでなく、来年4月からの新しい委員に引き継ぐことを見据えて議論を進めるという方法である。どちらにするかということだ。

それで先ほど言ったように、正副会長、事務局との協議を経て、「安全・安心な生活環境」にテーマを絞った。特に、稲田・鴨島・子安地区の空き家が問題になっている。空

き家が多いと犯罪につながる可能性が非常に高い。特に稲田は雁木があるので、その辺を踏まえて市に何か要望していききたいというのものもある。もう一つは、ここ数年、大雨になると必ず浸水するので、その辺も含めて、市にどうにかしてもらいたいという提言をしたいと思っている。皆さんの方でこういうことをしてみたいというのがあれば、この中でまとめて話し合いたいということである。

【三浦委員】

前回の協議会で、会長から、観光物産センターや芙蓉荘がなくなるので公共施設を造ってもらいたいという意見書を提出してはどうかと話があった。私も非常によい提案だと思った。災害対策も大事だが、公共施設の設置についても議論し、意見書を提出するのがよいと思う。

【船崎会長】

それも安心・安全な生活環境の中に含まれるし、住民同士の交流にも含まれるともいえ、皆さんの考え次第である。

【佐藤委員】

地域協議会主導で活性化プロジェクト委員会を作り、これから活動していくと思うが、私としてはこの新道区にどのような団体があるのかわからない。例えば「稲田むすぶプロジェクト」という団体のほかに、どのような組織、団体があるのか把握しているのか。協議会が地域活性化プロジェクト委員会に対して事業を提案し、活動していただくという動きも想定される。他にも団体、組織があるなら、こういう事業についてはこういう組織、団体をお願いした方がよいという意見が出てくるのではないかと思う。新道区にはどのような組織や団体があるのか知りたい。

【船崎会長】

新道区で一番大きいのは「町内会長連絡協議会」である。そして、2年前に「稲田むすぶプロジェクト」ができた。他にも「新道地区老人会」や「婦人会」、各スポーツ団体がある。なお、「稲田むすぶプロジェクト」の会長は、活性化プロジェクト委員会のメンバーである。

【千町委員】

今、稲田小学校区、富岡小学校区で様々な青少年育成会議ができていて、両校区それぞれに地域懇談部会、環境衛生部会、地域活動振興部会がある。地域懇談部会は町内会長で、環境衛生部会は民生委員、PTA、老人会、婦人会で、地域活動振興部会は各子

ども会などで組織されている。

【佐藤委員】

「稲田橋花いっぱい実行委員会」では、河川敷に花壇を作る活動等をしている。事務局は、新道区にはどのような活動団体があるか把握しているのか、お聞きしたい。

【渡邊係長】

地域の団体は任意団体であり、市役所に届け出が必要なわけではないので、市で100%把握しているということはない。

ご意見のとおり、活性化プロジェクト委員会以外の団体にも、ここで提案された事業の実施をお願いすることもあると思う。

次回の資料で、把握している新道区の団体を一覧にしたものを出したい。ただ、私たちが全部把握しているわけではないので、例えば、千町委員のお手元に資料があると思うが、皆様のご協力をいただきながらまとめていきたい。

本日は、地域全ての団体がわからないと協議が進まないわけではないと思うので、皆さんから安全・安心な生活環境について、ご議論いただければと思う。

【船崎会長】

基本的に任意団体で、例えば町内会単位の団体もあるし、または南部、中部、北部の団体などいろいろあり、それを地域全部網羅するわけにもいかない。新道区の全体を網羅する団体というと、町内会長連絡協議会、新道地区老人会、新道地区婦人会がある。あとは、新道地区の民生委員の団体という形になる。「稲田むすぶプロジェクト」は、あくまでも稲田小学校区を中心としたものであって、富岡にはまた違う団体があるかと思う。

それでは、フリーディスカッションに戻る。

【井澤委員】

全体テーマの「住みやすい地域づくり」や、「子どもから大人まで住み続けたいと思う地域づくり」と資料に書いてあるが、皆が集まれる場所、施設だけでなく、見て楽しめるものでもよい。集まれる場所があればと思う。

【金井委員】

新道区の地域活性化という大きなターゲットに向けて、住民同士の交流や安全・安心な生活環境がどのように寄与するのかわからない。新道地区の活性化と言うが、上越市全体の活性化を狙っているわけであり、各々の地域協議会で違うことをやっても、市全

体がバラバラになってしまうと思う。県内で地域活性化に成功した事例はトップダウンで行われている。活性化の次は子どもや人口を増やそうとか、当然働く場所がないと人も集まらないので、そういう取組をやろうというように、トップダウンで協議会の議論も進んでいく形にしないと効果が出ないのではないかと。

新道地区を活性化させるために、まずは人を増やすことが大前提だと思う。そのためには、高田や直江津でもよいので、働く場所がなければならない。人が増えなければ活性化ができるわけがない。自分たちがここで交流していてもだんだん人口が減ってしまう。問題の捉え方というかスケール感が全然合っていないので、一生懸命やっても大した効果は出ない。成功している自治体は、企業を誘致するとか、子育てするのに保育料を見直すとか、そういうことをしている。新道地区だけでそのようなことはできないと思う。釈然としないので、どなたか教えていただけるとありがたい。

【佐藤委員】

新道区は南北に長く、商業施設も離れているので、全体を改善するのは非常に難しい。例えば、寺の交差点には右折レーンが無く、事故が起きやすい。それ以外の道路も改善すべきところがあれば、議論して、安心・安全に使えるようになっていけばよい。

【杉田委員】

このままだと結論が出せないで終わってしまう感じがしてならない。

6月12日にゑしんの里記念館で行われた4区地域協議会委員合同研修会に行ってきた。牧区、中郷区、板倉区、清里区の方がそれぞれ発表された。その資料をもらってきた。行ってきたという報告である。

【千町委員】

町内会、町内会長連絡協議会、新道区、南部、北部、中部、それと先般立ち上げた活性化プロジェクト委員会とで毎回、同じ話をしているため、頭の中が混乱するという話を前回もした。

安全・安心な生活環境について取り上げるとするならば、町内会長としても毎回言っているが、古川排水樋門についてである。台風や大雨で被害が出る。子安や鴨島など近隣町内からの内水が、子安保育園方面から町内を縦断し関川につながる排水路がある。昔は少なかった住宅も今はかなりあり、土地も大部分がアスファルトなので、大雨のたびに樋門の水位が3メートルまで上がり、道路が冠水する。これは、鴨島二丁目町内会だけでなく新道地区町内会の問題として、市議会議員や県議会議員などとも話し合い、4

年前に市に対して他の地域にあるような大型排水機場の設置を要望した。地区全体として動いたおかげで、現在はいろいろと進んでいる。

協議テーマについて、防災・防犯を全面的に協議するのか。空き家など、また他の意見が出るから、取り留めのない話で毎回終わっているような気がする。

最終的に市長に意見書を提出するのならば、時間をかけて、テーマを一つに絞って話し合えばよいと思う。

【高野委員】

私も床上浸水を経験しており、何とかしたいと思う。

子どもたちの安全・安心ということであれば、稲田にある雪を流すための水路に蓋をしてほしい。それと、稲田小学校の信号付近に車庫があり、すごく危険である。青パトで2か月に1回巡回するときにもいつもその話になる。何とかできないものかと思う。

【三浦委員】

子安新田に住んでいるので、大雨時の関川の脅威を身にしみて感じている。要望を踏まえて年々対策され、徐々に大型機械等で改良されているようだが、関川の水害対策に焦点を絞っていただきたい。

【横山委員】

北部地区は交通量が激増しているが、設備が昔のままなので現状に迫っていない。交通量の増大に見合った交通安全上の整備をしてほしい。例えば道路の拡幅。大変な仕事になるかと思うが、中長期的な目標を持って、行政から取り組んでいただければとても助かる。地域協議会のレベルではもうどうしようもないだろう。そこまでいかないにしても、例えばカーブミラーなど、先日も交通安全協会の方と話したが、設置が必要な箇所がいくつもある。ただ、交通安全協会の年間の活動費が20万円しかなく、対応しきれない。地域協議会で、安全・安心という範疇に含めて、目を向けていただければ、北部地区としてはありがたいと思う。

水害対策については、地域協議会でどの程度まで言ってよいかわからない。従来の施設設備でよいかわからないが、地域協議会を地域の皆さんの声を挙げる一つの場としてよいのではないかと思う。そういった観点も取り入れていった方が地域活性化につながっていく気がする。

【船崎会長】

それぞれの意見を確認した。基本的には、安全・安心な生活環境で進めたいと思う。

地域活性化の方向性については、「住みやすい地域づくり」と全体テーマが決まり、そのまま行きたいと思う。我々が市へ意見書を提出するのか、それとも次の協議会委員への引き継ぎ事項とするのか、問題はあ

る。昨年 8 月の地域協議会の会長会議の際、市長に対して、地域活性化のためには市長が率先して行動を起こさなければならないこと、そして行政がしっかりそのバックアップをする必要があることを話した。旧安塚町や旧大島村では独自のイベントをやり、ある程度成功させた。旧安塚町は昔の後楽園球場に雪を持って行き、大々的なイベントで人を集めた。旧大島村はオーケストラを呼び、音楽祭を行ってきた。それが上越市と合併してから何もやってないと私は言った。市長がやりたいことを行政が受け継いでやっていないからこういう状態になる。だから市長自身がしっかりしないと駄目だと話した。この 2 年間見ているが、あまりやっていない。このようなこともあり、独自予算についても、それほど活発に使われていないのではないかという気もする。

それと道路の話。稲田の用水に蓋をした方がよいとの意見だが、一時期全部に蓋をしたが、雪処理に支障があると高齢者から反対され、開けてしまった。

あとは水害対策。これは国交省が関係するが、私も市に話をしている。最初にすべきは、関川の川底をさらうこと。毎年、予算をつけて川底をさらう必要がある。その後にポンプを設置する。地域協議会からの提言の一つになり得ると思う。以前、公共施設の設置について市に要望したが、今のところ考えていないとの回答が返ってきた。毎回駄目でも、毎回要望していかないと進まないと思う。

また次回、この件を議題にして協議を進めていく。

以上で次第 2 議題「(2) 協議事項」の「自主的審議事項について」を終了する。

次に、次第 2 議題「(3) その他」に入る

何かあるか。

(発言なし)

以上で次第 2 議題「(3) その他」を終了する。

最後に、次第 3 議題「その他」の「(1) 次回開催日の確認等」に入る。

— 日程調整 —

- ・ 次回の協議会：8 月 22 日（火）午後 6 時 30 分から 新道地区公民館 多目的ホール
- ・ 内容：自主的審議

最後に何かあるか。

(発言なし)

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

総合政策部 地域政策課 中部まちづくりセンター

TEL : 025-526-1690

E-mail : chubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。